

令和1年6月19日

集計者コメント（小芝 氏）

新たに回収されたアンケートデータは、95件になります。
前回分の119件と併せると計214件になります。

◆属性情報について(資料：1ページ～7ページ)

「医療機関」データの占める割合(資料3ページ)が、
7%→19%になったことが成果かと思えます。
他の機関(民間、教育、研究)に比べて少なかったですが、
今回で20%前後である程度バランスが保たれています。
その他の属性データに関する内訳に大きな変化はありませんでした。

◆各設問について(資料：8ページ以降)

第2回資料と同様、
前回分(119件)と今回分(214件)とを
比較した形で整理しています。

★Q2-3 及び Q2-4(資料：12ページ)

「かかわりを望む程度」については、大きな変化は見られませんでした、
「実際のかかわりの程度」については、

④学部長(回答数：21)

⑤研究科長(回答数：28)

⑨工場長(回答数：19)

の3つが0.5ポイント程、上に振れました。

この原因は、回答数が少ないことにあると思われますので、
こちらに関しても、変化が見られたとは言い難いです。
(一番多い回答が「主任者」で回答は150程あります。)

★Q3-1(資料：13ページ)

⑦作業者の意識

⑧法令の厳しさ(煩雑さ)

⑨安全管理に係る庶務

の3つは前回から追加された項目ですので、

他の項目に比べて相対的に振れ幅がありますが、大きな変化はないように思われます。

◆◆クロスで見た場合◆◆

試験的に、Q2-1 及び Q3-1 について、「主任者」と「主任者以外」でクロスしました。

★Q2-1(資料：10, 11 ページ)

「主任者である集団」に比べて「主任主でない集団」は、トップに「主任者」リーダーに「上司」と考えている傾向が強いようです(10%前後の振れ幅がある)。主任者の立場の方は、データに従えば、主任者以外の立場の方(事業所長レベル、部門の長レベル)をトップに考えている傾向が相対的に高いようです。主任者の方で、「トップ」もしくは「リーダー」を「主任者」と回答している方も存在します。選任主任者が複数人所属している場合と自身がトップ、もしくは、リーダーとして自覚している場合の2パターンかと思われます。

★Q3-1(資料：13 ページ)

クロスした場合でも、特に大きな変化は見られないですが、⑦の作業者の意識の「実現可能性」については、振れ幅があります。これは、グラフの結果だけを見ると、主任者グループの方が実現できると考えている方が相対的に多いです。また、「効果の程度」「実現可能性」ともに4ちかくのポイントが出ています。このような結果は⑦の「作業者の意識」以外にありません。作業者の意識を変えるための取組みが、障害となっている項目の中で優先的に着手すべきなのかもしれません。

※前回から追加された項目のため、データ母数が相対的に少なく、さらにクロスしているため、40～50程のデータ数になっています。

⑩の「その他」については、便宜上グラフにしているだけなので、数値自体の振れ幅は重要ではありません。

今回のアンケート調査により、

「その他」の項目として、

「主任者の地位」「活動時間の不足」

「「どうせ聞いてもらえない」という主任者のひがみ」

等が挙げられていました。

◆クロス解析について

今回は、「主任者」「主任者以外」でクロスしました。

全データ 214 件のうち、

「主任者」のデータが 90 ほど

「主任者以外」のデータが 120 ほど

であったため、優先的に行いましたが、

クロス解析を行う場合、より多くのデータが必要であり、

統計的に解析を行うには不十分であるのが現状です。

本資料のように視覚的にクロスデータを示すまでにとどまります。

別のクロス候補としては、

事業所の形態(民間、病院、教育、研究)

規模(100人以上、100人以下等)

年齢(30代、40代、50代、60代等)

が考えられそうです。

今回は間に合いませんでしたが、

以上のクロスデータを視覚化してみることも可能なようにデータを整理いたしました。

どのクロスデータにも言えることですが、

例えば、事業所の形態でクロスした場合、

それぞれの回答データが約 40 程になるので、

「主任者」「主任者以外」でクロスした場合の更に半分の母数データになります。

データが明らかに不足していることは否めませんので、

現状の回収データから見られる傾向を整理するところなる

といった説明になるかと思えます。

以上